



ローターアクトクラブ健全育成のために

RI 第2830地区RA委員長 神 勲 (青森南RC)

RIは3月13日を世界RAの日、この日を含む1週間を世界RA週間と定め、RCにRACとの共同プロジェクトや親睦活動に参加するよう呼びかけております。

また一昨年、青少年奉仕に関する部分を一部変更して、名称を「新世代のためのプログラム」とし、従来社会奉仕の範疇であったRAを、国際奉仕の中にあつた青少年交換と共に「新世代部門」に移管して、IAと同じ部門になり、わかりやすくなりました。

ジアイRI会長は青少年奉仕を重視しており「私達の責務や主な目的は、明日の指導者を育てること」と、RAの健全育成に期待し、その実践が急務であると説いております。

当地区のRA活動は大変厳しいものでありますが、全国的にも低調であることが昨年11月の全国地区RA委員長会議で発表されましたので、その資料からご報告いたします。

I 日本のRAは未熟のまま衰退し今や消滅の寸前にある

過去10年間の推移

| | 増 | 減 | 増減率 | 備考 |
|------------|---|---------------------------|--------|-------------------------|
| クラブ数 | + | 12C (438C→450C) | +2.7% | RAC制度誕生以来解散したクラブ総数54C |
| 会員数 | - | 1,342人 (7,787人→6,445人) | -17.2% | |
| クラブ平均会員数 | - | 3.5人 (17.8人→14.3人) | -19.7% | 今から18年前は、平均会員数20.7人であった |
| RACのRAC提唱数 | - | 10.3% (30.6%→20.3%) | -33.7% | RCの伸びに対し、RACの不振と解散の結果 |

RAの存亡を決定的にするのは、クラブ平均会員数が10人となった時で、その時には周囲の強い逆風に曝され、クラブは壊滅の状態になる。もしその時、ロータリーの形式主義に支えられたとしても、それは植物人間に等しいものでしかないと思う。

II 衰退の主因は提唱RCの“I serve”対応にある

1) “I serve”とは、奉仕は個人で行うもの、クラブはその為の自分を磨くことを目指した実習の場、役割の1年交代はその為のもの(前原パストガバナー著「ロータリー入門」抜粋)。

2) “I serve”の歴史(ロータリー奉仕づくり年表)

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1905年 | ロータリー誕生 |
| 1917年 | R財団設立 (We serve) |
| 〃 | 会員の一部分脱してライオンズを設立 |
| 1920年 | ライオンズ We serve 宣言 |
| 1923年 | ロータリー “I serve” 宣言(決議23-34) |
| 1928年 | R財団初代管理委員長任命 |
| 1961年 | IAC制度誕生 |
| 1968年 | RAC制度誕生 |
| 1983年 | R財団法人となる |
| 1985年 | R村落協同隊制度誕生 |
| 1992年 | ロータリー 社会奉仕声明 |
| 1996年 | 新世代のためのプログラム誕生 |

3) “I serve” 声明を出された当時は、多分にライオンズの影響は受けていたと思われる。その為ロータリーの“I serve”の考え方は宗教の教義にも似た信奉を得て今日に至った。

4) “We serve” の歴史(“We serve”とは、奉仕はクラブ等でみんなで行なうその目的を果たすことを本務とする活動)一前記年表で見ると通り、ロータリーの“I serve”(決議23-34)声明が出る6年前、すでにR財団が生まれていた。その組織が次第に充実し、奨学金だけにとどまらず国際救援活動にまで手を広げるに至った。

RIもまたIAC, RAC, 村落協同隊等次々に制定し、クラブにその提唱を勧める他、1992年の社会奉仕声明に続いて1996年「新世代のためのプログラム」発表と、着々とWe化が進められてきた。(1923年に出された“I serve” 声明は数年前、削除話が持ち上がったが、日本ロータリーの強い反対で残ったと聞く)。

5) We と I の serve 共存の時代

(イ) 提唱RCの対応

RI・R財団・米山等、上から流されてくる寄附、奨学生の送迎等、受け身のWe業務は何とか抵抗なく処理されてきたが、自主的にWe活動をするのはIAC, RACが初めてである。

初めはガバナー等の勧めもあって提唱はしたもの、その対応は従来からの“I serve”そのまま。これではRAは育つ筈がない。そのあげく育たない、金喰い虫、無用の長物と白眼視され、崩壊の道を辿っているのではないかと思われる。

(ロ) RIの対応

そんな提唱クラブ及びRACの実態を知ることなく、創設以来30年の歴史を過信してか、RACの育成方法を管理方式から放任方式に転換し始めた。それが又、提唱クラブのRA疎外意識を助長した。

(ハ) 真の指導者不在のRAC

RA会員の在籍平均年数はせいぜい2年程度ではないか。そんなアクターに対し提唱RCは、実習感覚の“I serve”で対応する。RIは放任方針をうちだす。提唱クラブが益々離反する。何もわからないアクターは放任状態の中でなすすべもなく、ロータ

リーの姿を見習ってひたすら親睦に励む。それが又、「遊んでばかりいる」と批判される。

こんな悪循環を繰り返しているクラブも多いのではないか。これでは指導者育成どころではありません。

アクターやロータリアンにRAとは?と問いかけて、下記の通りすらすらと答えられる人は何人いるでしょうか?

ローターアクトクラブとは

奉仕を志向する市民と指導者を育てるために若年成人(18才~30才)を対象にRCが提唱するクラブ。(手続要覧P290)

III 健全育成対策

1) 提唱ロータリークラブ

(イ) 継続指導活動体制の確立

- ・“We serve”の土壌をRC内に育て上げること。
- ・単年度交代の弊害を取り除くため専門的指導者を選任するか、パストRA委員長等による諮問審議会的な組織をつくり、現委員長をバックアップすること。

(ロ) クラブの充実

- ・プログラム、特に例会の中味をチェックし、リーダー育成に相応しいものとする。
- ・専門知識、財務等の委員会もリーダーの資質づくりに必須な活動にしばらく学習。
- ・指導面で一般ロータリアンの全面参加を促すこと。

(ハ) 会員増強

- ・「新世代のためのロータリープログラム」に積極的に取り組み、その中核にRAを位置づけ、それに関する総ての若年成人を会員に吸収すること。
- ・近隣未提唱RCに対し、「知ってもらおう」「協力してもらおう」運動を展開し、その過程で増強に協力していただく。

2) 地区ローターアクト委員会

- (イ) 本部指令だけにこだわると、地区事情と遊離することがある。実情重視で。
- (ロ) 対RI姿勢は上意下達ばかりでなく、下意上達にも意を注ぎ、RIとクラブの

太い確かなパイプであってほしい。

(ハ) パスト地区委員長による、研究と諮問の組織づくりをすすめる。

3) 国際ロータリー本部

(イ) 手続要覧は最も信頼できる活動の拠りどころです。その改変に当っては、クラブの実態に合ったものにしていただきたい。

(ロ) 手続要覧にRA, IAの標準定款・細則も載せてほしい。

(ハ) 放任化しつつある手続要覧の指導要領を1988年以前の管理方式に改めるか、RCや地区RA委員長の裁量に委ねる方式に改めてほしい。

(ニ) RI本部にRAの調整、研究、指導、統制を司る恒久的な(R財団のような)組織をつくっていただきたい。

(ホ) RA修了者を即RCに受け入れるには可成り無理があると思う。そこで、その中間にジュニアクラブ的なものをつくることを提案する。

4) RI, 地区, 提唱RCの共通事項

「新世代のためのプログラム」の発展に大きな期待を寄せていますが、具体的に確

かなものはまだ見えておりません。然しこれは基本的に関係委員会が共通の認識に立って共同して活動することだと思う。

私達はその結果として、育成効果は多大であり、特にRAの発展に大きく寄与すると期待している。

RI, 地区, 提唱RCでも一貫した、統一した方針をもって対処して下さるようお願いします。

IV まとめ

RAの健全育成は、全ロータリアンが、“We serve”の心でアクトに接し、根気強く、温かく、しかも長期育成計画を持って育て上げなければ、ロータリーが期待するような次世代を担えるリーダーは育たないということです。

アクトを取り巻くごく一部の人達はその気であっても、“I serve”が大勢であれば、熱心な一部の人も支え切れなくなるでしょう。RACが育ちにくいのも、54Cという多数の解散Cをつくった原因も、その大半はそんな状況がもたらした悲劇ではないでしょうか。